

日本慢性期医療協会 被災地における会員施設の現在の状況に関するアンケート

対象:岩手県・宮城県・福島県の会員24病院(回答18病院) 実施:平成24年11月

都道府県	市区郡町村	1. 被災状況・復興状況	2. 診療の状況	3. 今後の課題・要望
岩手県	紫波郡矢巾町	・当施設の被災は建物の一部亀裂が生じたものの、幸いにして軽微な被害であったためすぐに修繕を行い復旧している。	・震災前と変わらない。	・震災による経営等の問題はない。なお、被害の大きい沿岸部に当院から看護・リハビリ等のスタッフを毎週1回複数人派遣し応援している状況。
宮城県	石巻市	・ほぼ震災前の状況に復帰している。 ・設備・機器ともに復旧済み。	・外来患者については津波で被災した方が多く移転をしたため少なくなった。入院については重傷者の紹介入院が増加。理由は市立病院が閉鎖し、患者の行き場がなくなったため。防災グッズや非常食が多くなり、また上の階に保管せざるを得ないため、限られたスペースの中で困窮している。	・医療費を払えない患者が多いように感じる。未収金が増えた。当院は3年後に移転新築を計画しているが、そのため余分な投資もできず、非常用発電装置もなく、その間にまた大きな地震・津波が来るのが心配。医師も高齢者が多く、また疲労感も重なり疲弊している。複数年単位で支援してくれる医師がいたら大変助かります。
	角田市	・建物の被害はほとんどないものの、外洋部分に地盤隆起が発生。10月末に復旧を完了している。	・診療行為も震災前の状況に復旧している。	・特になし。
	栗原市	・復旧済み。	・通常通り診察している。	・災害時のみならず、通常でも医療スタッフ不足が続いている。早急の対策をお願いしたい。
	仙台市	・病院機能は復旧完了している。建物についてはこれからも細かい補修が必要な状況。	・通常通り診察している。	・特になし。
	名取市	・被災時からまだ修理・修繕ができていない状況。	・震災前と変わらず診療している。	・震災を機に、特にナースにおいて人手不足が続いている。人材派遣会社を通して人材を確保しようとする、大きなコストがかかり経営を圧迫してしまうので積極的な採用ができない状況になっている。当院の最大の課題はここにあり、支援を要望したい。
	宮城市	・施設の復旧工事は完了し、震災前と変わらぬ状況に復帰している。	・病棟が一部使用不可能な状態のまま、診療を続けている。	・早く民間病院(災害拠点・緊急以外)への支援・補助金制度を作って欲しい。
福島県	いわき市	・建物等、設備面はほぼ復旧した。	・通常通り診察している。	・特になし。
		・震災前の状況に復旧している。	・入院・外来ともに通常通り診察している。	・人材、特に看護師の補充をしたいところだが、新規雇用が難しくなっている。
		・浄化槽全壊、院内外壁の一部損壊。また断水が平成23年3月11日から約一ヶ月間生じたが、現在は全面的に復旧している。	・通常通り診察している。	・原発事故被災地区よりの避難者仮設住宅が近隣にあり、その対応を含め、心身のケアが必要であるが、内科単科のため、対応が十分にできていない。健康体操や茶話会などは開いている。今後、長期に渡る支援が必要。
		・当院は地震の影響で8階の床が傾いた。また海沿いにある2病院1施設の1階部分が津波により全壊した。建物については3ヶ月で完全復旧となったが、原発問題で職員が減少し、特に看護師・介護士が未だに不足している。	・医師については震災前と比べ1名の減少となっている。外来診療は震災前と同様のレベルになったが、入院診療については看護師、介護士の不足があり、入院に制限がかかっている。	・特になし。
	会津若松市	・特に被災なし。	・通常通り診察している。	・短期派遣の医師・看護師は不要である。長期的にいわきに根を下ろした人材が必要である。
		・震災および原発事故による直接的な被害はなく、災害前と変化なし。	・震災前と変わらない。医師・看護等スタッフの減少もない。	・特になし。
	喜多方市	・もともと大きな被害がなかったため、現在は復旧している	・通常通り診察している。	・特になし。
郡山市	・放射能の除染が遅々として進まず、当院では従来より庭園でのリハビリも実施していたため、自費で除染を行い、原子力損害賠償紛争解決センターに実費428万円を請求申請したところである。速やかかつ確実な補償を要望している。	・震災以降、常勤医師2名・非常勤医師1名が病院を離れその補充がままならない状態。先般の保健所立入検査で標準医師数を下回っているとして指摘を受けたところである。(これまでの立入検査では通所リハの数は標準医師数の計算に加えないとの見解だったが、今月、急に加えるように指導を受けた。)	・何よりもまず、医師の補充が最優先課題である。	
	・完全に復旧している。	・通常通り診察している。	・特になし。	
福島市	・施設被害については修繕が完了しているが、被曝被害が続いている。福島市の被曝線量は平均で0.6~0.8マイクロシーベルト/時があるが、病院周囲でも現在の数値で0.5~0.8ほどある。公表はされていないが、市内には、未だに1マイクロシーベルト/時を超えるホットスポットも存在する。こうした状況から風評被害は収まらず、医療従事者の確保が困難である。更に建築人口が仙台に集中し、かつ除染作業に駆り出されているため、人手不足で建築期間の遅れが著しい。人件費も高騰している。帰宅困難が20~30年と予想される被災地の周辺では人口増加が起きて住宅不足もあるが、高齢者の受け入れ施設が不足している。当院でも高齢者施設の増築を開始しているが、工期の遅れと費用の高騰に苦心している。	・なんとか非常勤医師の確保ができるようになり、院長の週3日の当直はなくなった。しかし医師の必要数確保はぎりぎり、月によっては不足してしまう。来年度は困難が予想される。看護師不足は深刻で、時には必要な処置ができないこともある。非常勤の看護師は少しずつ増えているが、部属持ちの出来る看護師と夜勤のできる看護師の確保が困難。また、72時間の縛りにも苦慮している。	・人員確保のため人件費の増額が必要で、利益は減少せざるを得ない。それでも職員の確保ができれば運営は可能と思われるが、医療従事者の絶対数が少ないため、質の維持が難しい。医療従事者数の増加策、長期の派遣支援などをお願いしたい。特に行政への働きかけが必要だと考える。	